

4月は年度も変わり、新たな生活が始まる月です。特に今年は平成から新しい年号に変わる節目の年でもあります。振り返ると平成に年号が変わったばかりの頃は、「平成」「昭和」を使わずにできる限り西暦表示をしていたことを懐かしく思い出します。

今号は特大号で「傍脊柱筋の機能解剖学、姿勢制御と手術アプローチ」がテーマです。最近のトレンドである成人脊柱変形にも大に関係あるテーマです。以前にも脊柱変形に関する特集は数多くありましたが、「傍脊柱筋」に的を絞った運動や姿勢の問題、手術アプローチ上の問題に関する特集は初めてです。そして、本誌の編集者である金彪教授の力のこもった特集号でもあります。

変性側弯の病因として、最初は下位腰椎の椎間板の左右差のある変性から始まるとされていますが、傍脊柱筋の機能障害の関与も決して少なくないはずです。また、長く行われてきた後方手術は、その弱った傍脊柱筋にさらにダメージを与えながら行われてきたわけで、その筋肉への侵襲性の大きさがその歴史でした。内視鏡的椎間板切除、棘突起縦割椎弓切除術、最近のOLIF、XLIFの前方手術などの導入後に、私たちは通常の後方手術の傍脊柱筋に対するダメージの大きさをあらためて実感させられてきました。本特集は、そのような傍脊柱筋の解剖や機能をあらためて考え、傍脊柱筋機能回復による脊柱変形の予防、そして傍脊柱筋に少ないダメージで手術を行うことのほか、金先生が長年力説してきた柔軟性のあるせぼねの維持が最終目標です。「傍脊柱筋」についてこのような突き詰めた特集号はなく、金先生をはじめ執筆者の皆様の熱意には敬服いたします。

一方、傍脊柱筋を鍛えることが脊柱変形の予防に役立ちそうですが、誰もエビデンスを発信していませんし、首下がりの病態についても不明の点が少なくありません。すなわち、傍脊柱筋について十分な研究が行われてこなかったこともわかります。「骨粗鬆症の骨」「椎間板の変性」については各方面から研究がなされ、現在も継続中です。次はこの「傍脊柱筋」です。その視点で本号を最初から最後までお読みいただき、明日からの日常診療に生かしていただければ幸いです。

そして、しっかり「傍脊柱筋」に力を入れて背筋を伸ばして新しい生活をスタートしましょう。

(徳橋泰明)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

徳橋泰明 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 32 No. 4
(2019年4月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価 (本体5,400円+税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料 30,700円+税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2019,

Printed in Japan

JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。